



話を聞くこと、伝えること コミュニケーションの大切さ

二戸市 会計課
近藤 歩美 さん (旧姓: 大森)
こんどう あゆみ

平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月まで、
二戸市から大槌町福祉課へ派遣。
派遣期間終了後、平成 28 年 4 月から平成
31 年 3 月まで、二戸市広報担当を務める。

地元職員や派遣職員など、さまざまな人々と仕事をする中で、コミュニケーションの大切さを感じました。話を聞くこと、伝えること、基本的なことではあるけれど、それがすごく大事でした。この経験は、広報の仕事をするときに、丁寧に話を聞き、思いがきちんと伝わるように記事を書くことを大切にしたいという思いにつながりました。

派遣期間中に二戸市の広報に載ったこともあり、戻った時には市民から声をかけていただき、ねぎらいと被災地の現状を心配する言葉を多くいただきました。あらためて、被災地に心を寄せている人は多いのだと感じました。案外、広報はよく見られていることも知りました (笑)

広報担当になってから、震災から 5 年以上が経過し、風化してきているのではと思い、継続して被災地支援をしている市内団体の活動を紹介しました。

大槌での全ての経験が糧になっていますが、たくさんの人とのつながりが持てたことが何より大きな糧になっていると思います。



八木澤 弓美子 さん
やぎさわ ゆみこ

私たちがつらい時、優しい言葉で包んでくれた歩美さん。被災地支援の記事から、優しさが伝わってきます。今でもとても感謝しています。

広報にのへ
No.263 は
こちらから



「広報の絆」 第 5 回 広報の ちから

広報にのへ No.263 2016 年 12 月号
広報遠野 No.208 2022 年 10 月号

大槌育ちの「絆と力」

東日本大震災津波からの復興期間に派遣職員として大槌に来てくれた皆さんも、「大槌育ち」の仲間です。大槌での派遣期間を経て、派遣元に帰ってから広報担当職員を経験した二戸市と遠野市の 2 人に、大槌育ちの「広報の力」について語ってもらいました。

「大槌育ち」の魅力は
あなたの中に

大槌には、学びの機会、五感を満たす環境、人のつながりと育ての輪があり、この、時、場所、人の三つが、大槌で過ごす人の成長の力となっています。

「大槌育ち」の養分は、イコール町の魅力といえるでしょう。その中には、昔からの大槌の環境の中で生活や文化として育まれ、多くの人々がつないできたものもたくさんあります。今、大槌町で過ごしている全ての人々が、今日、この瞬間も大槌育ちの養分を受け取り、また、誰かに渡しています。

「大槌育ち」の仲間の絆を感じながら、その誇りを次の時代へと繋いでいくためにも、自分が大切に感じるものをあらためて思い出してみませんか。大槌ならではの魅力は、すでにあなたの中で育っています。



わたしたち、大槌育ち

大槌を愛する人たちに触れ、 遠野を愛する気持ちを再認識



佐野 薫 さん 佐々木 秀季 さん
さの かおる ささき ひでき

「コンコン」と口でノックして入ってきた北田さん。ユーモアあふれる取材風景が目につかびます。広報が読めて嬉しいです。

遠野市 総務企画部 経営企画課

北田 歩 さん
きただ あゆむ

令和 2 年 4 月から令和 4 年 3 月まで、遠野市から大槌町に派遣。コミュニティ総合支援室、協働地域づくり推進課に勤務。令和 4 年 4 月から、遠野市広報担当。



私が勤務した部署では、コミュニティ支援や、交流センターの管理などを行っていて、特に町民の皆さんと触れ合う機会が多かったと思います。その中で、大槌の人たちが自分の町を好きで住んでいることを強く感じました。そんな大槌人に感化され、帰ってから遠野市の良いところがたくさん見えて、広報担当として大きな力になっています。自分が取材した人が、町で声をかけられたと聞くと嬉しいです。

今は、遠野出身者だけでなく、移住や転勤などで遠野市にいる人たちをもっと紹介していきたいと考えています。自分が大槌町で仕事をした時、本当にこの町のために頑張りたいという気持ちだった事を思い出し、そんな人たちの気持ちを住民に知ってもらい、強いつながりを作っていってほしいと思います。

広報遠野
No.208 は
こちらから

